

第6回交通政策審議会陸上交通分科会自動車部会
議事概要

日 時：令和6年5月15日（火）17:00～18:30

場 所：3号館8F 特別会議室

出席者：青山委員、大井委員、塩路座長、清水委員、須田委員、住野委員、林委員、
村木委員、山内委員（五十音順）

概 要

事務局より自動車部会中間とりまとめについて説明後、委員より以下の発言があった。

- 「安全」というのが非常に重要だと思っている。一般ドライバー・自家用車に対する安全規制をどうするか検討していく旨を本文に反映していただいたのはよい。
- 利用者目線の評価をしていくと書いているが、指標はそうっておらず、どちらかというと事業者目線のように思うため、利用者目線からのモニタリング評価ということがきちんとできるようにしていただきたい。
- ドライバーの安全だけではなく、車と乗客の安全という言葉が抜けていると思った。また、安全だけでなく安心して利用していただくという観点から、ドライバー・利用者それぞれに対する評価を行えるようにすることが有効。
- 当部会では、業務委託という働き方はなかなか難しいのではないかと方向性がある程度固まったと思うので、そういった意思表示をしていただきたい。
- 公共交通全体で考えていくべきところ、タクシーや移動の足の不足に焦点が当たり過ぎて、そういった視点がないがしろになっている。都市部は戻ってきているが、地方部はまだまだであり、安易に自家用車を入れるような方向にならないように、改めて公共交通全体で考えていただきたい。
- フリーランスという言葉が出てくるが、政府全体としては非正規雇用から正規雇用にという議論の流れがある中で、その流れに逆行するという意味で違和感を覚える。
- 自家用車活用事業の利用者の中には、興味本位で乗ってみたいという人もいると思う。マッチング率や利用台数の結果から必ずしも本当に足りないという結果につながるものなのかはよく考えていただければと思う。
- 地域公共交通に携わっている自治体の皆様や今渦中にあるタクシー事業者などの関係者に向けて、新たに始まった自家用車活用事業や自家用有償旅客運送制度の見直しなどに対してどう向き合っていくべきか、今回の中間とりまとめを通じてメッセージを伝えるような部分を書き込んでいただけるとありがたい。

- 今回の中間とりまとめの最後に、地域公共交通のあり方について総合的な議論が必要であるという文言が加わったところは注目に値すると思う。地域の現場では、一生懸命改善に向けて取り組んでいるところが多くあって、その都度試行錯誤しながら前に進もうとされており、こういった取組により地域公共交通のよいあり方ができてくると思う。
- 自家用車活用事業の指標について、（実際に人を乗せて走っている時間／拘束されている時間）といった利用率についても、直接的な評価につながる可能性があると思う。
- 利用者目線から、観光地や都市部などにおいてなかなかタクシーが捕まらないと感じていたが、今回の制度改革などにより、その解決が期待されるというところまで来ているため、大変心強く思う。
- いろいろな評価方法があるが、取れるデータは早めにとっていって、その状況を見ていくということも大事ではないか。

以上